

十勝ほ乳育成技術の発展を目指して

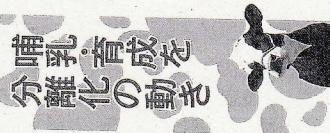
頑かがる

2015年6月号

生きた財産を大切に育てる

近年、十勝の酪農は生乳生産量が拡大しており、それに伴い一戸当たりの乳牛飼養頭数も増えています。しかし、十勝の酪農経営は家族単位が主で労働力に限りがあり、生産規模の拡大を推し進めるためには、業務を分散して生産者の負担を軽減する支援インフラづくりが求められています。

今月のどかち農業ふあいるでは、子牛のは乳育成牛受託を専門に行う牧場や農業生産法人で構成する十勝ほ乳育成牛受託協議会の活動についてリポートします。



十勝の酪農業における子牛のは乳育成牛受託協議会会長（株式会社シード・ブライド代表取締役）の桐山靖朗さんにお話を伺いました。

桐山／近年、十勝では酪農家が生乳増産を効率的に進めるため、業務の分散・分業化が進められています。搾乳牛や乾乳牛への給餌面ではTMR（セメント）による一括生産と配送供給。粗飼料の生産ではコンタクトラクター組織への業務委託、そして子牛のは乳育成においては専門の預託牧場で定期預託する預託システムがあります。

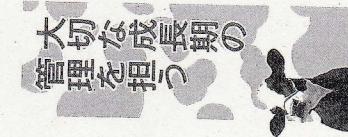
十勝は育成牛受託協議会は、子牛を専門に預かる十勝管内の7つの民間預託牧場や農事組合法人と16社の賛助会員で構成する組織で、平成26年4月に設立されました。協議会では各受託組織の生産管理や業務管理などの情報共有を図り、業務運営の安定化を進めるとともに、十勝の酪農生産に寄与することを目的に活動しています。

十勝ほ乳育成牛受託協議会会員	
株式会社 シード・ブライド	豊頃町
株式会社 希興	浦幌町
農事組合法人 カーフゲート	中札内村
東豊以ほ乳育成組合	広尾町
豊似ほ乳利用組合	広尾町
農事組合法人 清流ファーム	清水町
陸別町農業協同組合	陸別町

ができれば、生産者は搾乳牛の管理に集中することができ、生産量を上げていくことができるのです。

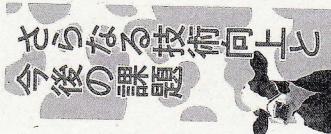
私たち預託牧場は、子牛を預かり育成するための専用の施設（導入舎・口ボット保育舎・離乳舎・月齢に応じた子牛舎・妻からん舎・堆肥舎などを）を有したスタッフが常駐し、預かっておいています。

この成長過程の育成如何いかで、その後の健康維持、乳量に大きく影響するため、育成管理責任は大変重要なことです。また、万が一子牛が病気で死んでしまうような不測の事態も極力避けなければなりません。協議会では個々の会員の技術向上を図り、生産者の期待に高いレベルで応えていくため、定期的に研修会を開催し緊密な情報交換を図り、そこで得られた情報や技術を、農協や近隣の生産



者にフィードバックするなどの活動に力を入れています。

協議会全体では、年間約4千頭以上を受託しており、浦幌町の株式会社希興を筆頭に、南十勝と陸別町の牧場、農事法人で、現在、一組織当たり約8百頭規模を受け入れを行っています。



桐山／今月開催した現地研修会では、協議会メンバーの農場を視察し、哺乳アーム、下痢発生時の対応などについて、各農場代表を講師に技術検討を行いました。また今年度は遠北や別海町への管外視察も行う予定です。

協議会の事務局運営、研修会開催にあたっては、十勝総合振興局農務課、十勝農業改良普及センターの支援を仰ぎ、農協や生産者との情報共有についても協力をいただいている。

冒頭にもお話ししたことおり、十勝の酪農業は規模拡大の方向で進んでおり、生産者の負担軽減のためのインフラづくりが大変重要です。しかし、管内のは乳育成牛受託施設では、受け入れ数がほぼ限界に近づいているのが現状です。設備拡大に向けた人手預託施設、飼育確保や堆肥処理など、大規模な投資が付つだけに難しい課題でもあります。

私たちは日本を代表する生産地である十勝酪農業の発展、生産者の経営安定や労働負担軽減のために、これからも連携を深め、技術の切磋琢磨（せきまくさ）を図り地域に貢献していくたいと考えています。

PickUP

第13回 国際トラクターBAMBA 7/12(日) 9:00～(雨天決行)

●会場：更別村ふるさと館開催場
●開催日：7月12日(日)
●主催：BAMBA実行委員会(更別村商工会内)
□0155-52-2010

十勝ほ乳育成牛受託協議会会長
(株式会社シード・ブライド代表取締役)
桐山 靖朗さん

私たちは安全・安心な畜産物を届けられます。

豊頃町中央若葉町12番地
電話(0155)425-5742
FAX(0155) 574-3688

とよごろ
豊頃町農業協同組合

企画制作：北海道新聞帯広支社営業部